



自然公園と車道

石川俊夫

この夏、阿寒国立公園のアトサヌブリ（川湯硫黄山）山麓に展開するツツジの群落を縫う自然探勝歩道を、久しぶりに楽しむ機会に恵まれた。ここはこの自然公園でもハイライトと見るべき、もっとも美しい景観の一つである。これまで幾度か訪れたところであるが、濛々と噴気を立ち昇らせ、硫黄臭ただよう迫力ある溶岩円頂丘型火山とハイマツ、シラカバ、ツツジ、シヤクナゲなど新鮮な生氣にあふれた植物群の織りなす自然はすばらしく、陶酔に誘う境地であった。しかしトラック、バス、乗用車の走る騒音はたちまち静かな夢の世界を破り、現実を引き戻された。アトサヌブリ山麓より川湯温泉に通じる観光道路は、古くからこの植物群落地域を貫いて主要交通系をなし、観光以外の多くの車にも利用され、絶えず騒音を与え、排気ガスをまきちらしている。

北方植物学の権威・館脇操博士は、この植物群落を北海道の最も注目すべきものの一つとして推賞し、しばしばその保護の重要性を述べ、数カ月前にもそのことについて新聞に筆をとっておられる。

年々増加する自動車の排気ガスは周辺の植物生態に悪影響を与え、機能を損傷していることは論をまたない。この車道を廃止し、

歩行者あるいは自転車のみ道とすることによって貴重な植物群落の保存に有益なばかりでなく、いままです自動車観光の習慣にならされて、知らず知らず足で味わう自然の楽しさを見逃していたことに気がつくであろう。こんな交通便利なところに、こんなにすばらしい自然の楽園があることは驚くべきことである。美しい自然の存続をはかることと、多くの人を自然の懐に近づけることは自然公園の重要な意義である。探勝歩道が多数の人に利用されることによって植物が荒されることがまったくないとはもちろん断言できないであろうが、それは将来の国民の良識に期待することである。

自動車観光は短時間に多くの名所を瞥見し得る長所を有し、将来ますます流行する傾向にはあるが、自然を対象とする公園内の車道は連絡路としてどうしても必要なものの最小限度にとどめ、少なくともその公園の核心をなす自然の楽園には車道を絶対入れず、歩道のみでゆっくり自然の美しさを味わうべきである。その園内既設の車道は廃して歩行者天国とし、従来の連絡の代替車道を園外において新設するか、旧道拡幅によって求めることである。自然に恵まれた北海道の自然保護は、特に自然美を永く残す先導的積極性を特徴としたい。

（金巻）